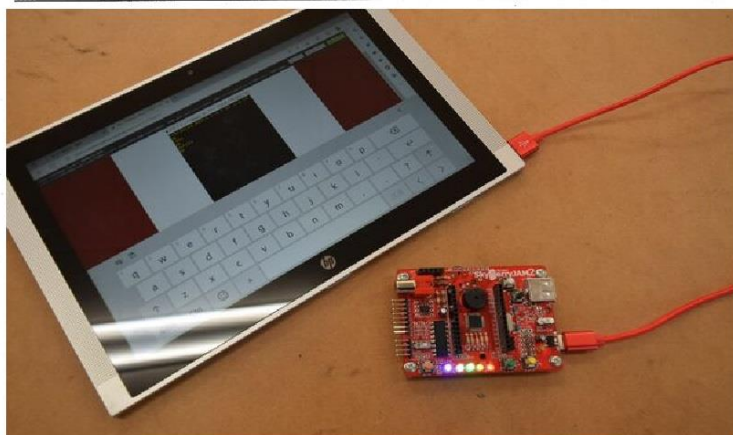




タブレット活用へ改良

プログラミングもっと身近に 栃木工高生開発 教育用パソコン

【栃木】栃木工業高の生徒がこのほど、同校で開発、商品化したプログラミング教育用パソコン(子どもパソコン)の組み立てキット「SkyBerryJAM(スカイベリージャム)」をタブレット端末で操作できるよう改良した。これまではキットにモニターやキーボードを接続する必要があった。小中学生が学校から貸与を受けているタブレットを活用し、手軽にプログラミングを学べるようになった。

(古澤葵)

スカイベリージャムはモニターとキーボード、電源を接続し、簡単なプログラミングをすることができ、同校が2016年に商品化し、市内小中学校で出前講座を開くなどしてきた。中でも家中小は授業で活用してきたが、同校から昨年、使えなくなったという連絡が栃木工業高にあった。児童へのタブレット貸与で、これまでスカイベリ

ジャムに接続していた機材が撤去されたためだった。これを受け今春以降、同校電算機部の生徒ら10人ほどが改良に着手。半年かけ、タブレットにUSBケーブルで接続できるようにし、タブレットのウェブブラウザで操作ができるソフト

「タブレットに接続できるよう改良されたスカイベリージャム」改良に当たった高野さん(右端)ら

ウェア「スカイベリターミナル」を開発した。

11月25日には、初めてタブレットとスカイベリージャムを使ったプログラミング出前講座が家中小で行われた。高校生9人が講師として参加し、児童たちは身近な電子機器であるタブレットを使ってプログラミングを体験した。

電算機部員の3年高野光生さん(17)は「タブレットとスカイベリージャムがより多くの学校で活用され、実践的な学習をするケースが増えてほしい」と話していた。